

平成16年度 第2回意見交換会報告

日時： 平成16年10月23日（土） 10:00～12:00

場所： におい・かおり環境協会会議室

出席者（敬称略 順不同）：

祐川英基（三菱マテリアル資源開発）、北村清明（東京都）、鈴木信廣（東邦化研）
芝崎克一（理研計器）、中野 肇（新明和工業）、石川英一（日本デオドール）
小坂芳雄（環境管理センター）、相部紀夫（エコ・ワークス）、大林真人（北炭化成工業）
伊藤英武（におい・かおり環境協会）、吉栄康城（新コスモス電機）
平林憲次（東亜道路工業）、清水洋一（日揮ユニバーサル）、諸井澄人（環境技術研究所）
以上 14名

1. 講演報告

演題「活性炭吸着法における従来型と最近の方法について」 講師 相部紀夫殿
各種活性炭の開発の歴史が紹介され、それぞれの脱臭原理が説明された。活性炭量の計算などの設計法および寿命の予測について、設計事例をもって解説がなされた。また、寿命を判断するためにセンサーなど簡易法の活用について説明された。活性炭の平衡吸着線図など貴重なデータも提供され大変分かりやすかった。
つぎに、従来の吸着用活性炭とはことなり、低圧損で接触効率が高い省エネタイプのハニカム状の活性炭について、その特徴、脱臭原理が説明された。下水処理場の場合、脱臭処理に適している臭気は、間欠的に高濃度臭気を発生する雨水貯留槽の排気その他低濃度・大風量の局所排気、生物脱臭処理後の排気であるとの説明があった。この活性炭設備の設計法も説明された。通ガス速度が従来の約3倍以上もあり、設備がコンパクトになると同時に運転費用が低廉になるとの有利点が説明された。また、この活性炭は生物脱臭のための担体としても有用である旨説明された。適用事例として、実験動物室の排気、空気清浄機、自動車の排気ガス（地下駐車場など）などが紹介された。（テキスト、別紙1参照）

2. 意見交換

かねてより、朝日新聞be編集部の記者の方が“臭気判定士及び試験”について取材をしたいとの申し入れがあったので、講演を含めてこの意見交換会に同席させ、自由に感ずるところを記事にしてもらうこととした。記事は11月20日付けで掲載された。（別紙2参照）以上のような事情から、参加者の自己紹介と職種などの話で終始し、意見交換会としては、特に報告するような事項は無かった。

3. 臭気判定士試験直前講習会の開催について

前回の判定士会での決定にもとづき10月30日に開催するため、開催責任者、講師の方々と詳細打ち合わせを行なった。（講師分担表、別紙3参照）
直前講習会参加者は30名であることが報告された。